



第 22 号

平成 29 年 3 月

沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	11. 学生会より	17
2. 卒業生へ贈る言葉	3	12. 寮生会より	18
3. 卒業にあたって	4～5	13. 後援会会長挨拶	19
4. 学年の学生の様子	6～7	14. 保健室より	19
5. インターンシップ体験記	8～9	15. 平成 29 年度学生募集結果一覧	19
6. 就職・進学状況	10～11	16. 平成 29 年度 (前期) 行事予定表	20
7. 修了生へ贈る言葉	11		
7. 修了にあたって	12		
8. 第 12 回高専祭	13		
9. 学生の活躍	14～16		
10. 地域連携事業	17		



校長 安藤 安則

校長の安藤です。地域住民の皆さんをはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協会の皆様方には、平素沖縄高専の教育・研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝致します。

2017年のはじめに際して、三つのことを話したいと思います。

最初の一つは、大きな世界的変化への対応・考え方です。昨年は世界的に大きな予想外の激変がいくつかありました。英国のBrexit（EUからの離脱）、そして米国の次期大統領にTrump氏が就任することになり、また隣国韓国では大統領弾劾裁判が始まるなど、日本に大きな影響を及ぼすと考えられることが次々と起こりました。

この大変動が与える衝撃波を歴史上の類似の事件に求めますと、1990年のベルリンの壁崩壊、1991年のソ連邦の崩壊からロシア共和国誕生に匹敵するぐらいの衝撃が世界中、特に日本国民に与えました。今までの当たり前方向と思われていたことが全く違ってきて、多くの人にとって不透明感に包まれているのが現状だと考えます。また今年にはTrump氏が正式に米国大統領に就任し、これからフランス大統領選、ドイツの総選挙、韓国の大統領選など、不確実な政治の季節が続きます。まさに不確実な時代が改めて始まります。

第二に、翻って日本を考えると、過去20年間で労働人口が1,000万人減少し、更にこれから10年間で1,000万人減少すると予測され、かつ1960～80年代のような大きな成長が見込めない日本経済であり、2030年には今の職業の47%以上が今にない新しい職業にとって替わるとも言われています。このような状況下に沖縄高専から卒業生を送り出すわけですから、様々な変化に対応し、生き抜ける人材育成を教職員一丸となつて行うことが最重要だと考えます。

第三に沖縄高専は、このような観点から、先ず学生其々が先端的専門性を鍛錬・習得しかつ英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際化された実社会において活躍できるように、グローバル人材育成教育を推進しております。現在、沖縄高専は機械システム、情報通信システム、メディア情報、生物資源の4つ工学科を持ち、平成27年度には新たに航空技術者プログラム、情報セキュリティプログラム、再生医療プロジェクト等多くのプロジェクトを立ち上げ、沖縄県や関係企業と連携し、地域社会への貢献を図っております。

日本経済新聞の正月元旦の一面の見出し記事に、「断絶（Disruption）を超えて」が掲載されました。このような状況下で我々沖縄高専が発展するには、一人ひとり、そして組織として未体験の領域へ果敢に挑むことが大切だと考えております。かのピーター・ドラッカーは、「未来は不確実だが、創ることができる」と言っております。皆で自信をもって前向きに取り組みしましょう！

今後とも関係各位に沖縄高専の教育・研究にご理解頂き、更なるご協力・ご支援を賜るようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。



機械システム工学科

5 学年学科担任
安里 健太郎

5 年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！9 期生が 1 年生のころから学科担任を務めてきましたが、今こうしてみなさんが卒業していくと考えると、この 5 年間はあっという間であったように感じます。沖縄高専に赴任して 6 年目になりましたが、みなさんの担任を務めたことが、私にとって一番苦労したことであり、一番自身を成長させてくれたことであり、そして、一番楽しく充実した経験でもありました。いろんな意味で(?) ありがとうございます。

これからみなさんは、沖縄高専を卒業してそれぞれの進路に向かっていくことになります。自分の希望していた進路に進むことができた人もできなかった人もいますが、これぞみなさんの人生が決まってしまうわけではありません。自分自身がよりよい人生を歩んでいきたいと考えているなら、「どう考え、どう行動していくか」がもっとも重要です。おそらく、与えられた課題や仕事をこなしているだけでは、みなさんが望む結果は得られないでしょう。自身で目標を立て、それを実現していくという強い意志を持って、自主的に考え、行動していきましょう。それと、何よりも大切なことは、心身が健康であることです。色々な付き合いもあって、不摂生な生活を送ってしまうことも多々あると思いますが、暴飲暴食はなるべく控え、休みの日は十分休息を取ることを心がけてください。心身が健康でさえあれば、案外どうにかなるものですよ。

最後になりますが、みなさんがそれぞれの適所で個性(自身の強み)を発揮し、活躍してくれることを期待しております。私自身も偉そうなことを言った手前、自己研鑽しステップアップしていくつもりですので、ともに頑張っていきましょう！また、どこかで成長したみなさんへ会える日を楽しみにしています。



情報通信システム工学科

5 学年学科担任
谷藤 正一

5 年情報通信システム工学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が沖縄高専に赴任して、初めて教えた低学年の授業が『創造演習』で(モールス通信の実験を覚えていますか!?)、つい昨日のように思い出されます。それから、学科担任として丸 3 年間...一緒に過ごしてきた皆さんを、それぞれの進路に鼻向けできたことは様々に感慨深く思います。皆さんにとって、5 年間は長かったですか?それともあっという間でしたか?何もしていなくても進んでしまう時間の中で、それはそれは沢山のことを感じ、悩み、考え、実行し、反省してきたものと思います。この数々の経験を何かの機会に今一度思い返せば、また次への活力になるものです。そんな皆さんの様子が詰まった日々の学級日誌は、先生にとっての宝物です(同窓会で暴露できるのを楽しみにしておきます!)。社会に出てからも、日報、週報、月報、年報と、報告書を書く機会には沢山あります。ほんの少しの心掛けとして、与えられた記入欄は「全て」埋めるようにしましょう!

また、高専に来て...まさか、その昔使っていた中国語を喋ることになるうとは思っていませんでした。『研修旅行』も良い思い出です。皆さんのご家族のお陰で、全員が参加できましたね。英語や翻訳アプリを駆使して、現地の学生と交流できたことも今後に役立つ経験の一つです。先生にとっては、台湾に少しだけ長く居られたことも良い勉強になり、皆さんの後輩に語り継ぐことができます。

『体育祭』の総合優勝は、本当に凄かった!決して体力ばかりで勝ち得たものではないはず。個性を見極め、戦略を考えて、考え抜いた結果の賜物でしたね。そんな、リーダーを中心としたチームワークも、社会に出て仕事をやる上で必要となる能力の一つです。きっと今後立ち足はかかるであろう課題の解決に役立つことでしょう。

新たなスタート地点では、高専に入学した時の時と同じで、初めて経験することが続きます。目の前のことを、しっかり熟すのは当然のことながら大切ですが、さらにその先を見越して、頼まれてもいない先回りができる、そんな人になれることを目指しましょう。もちろん、出る杭は必ず叩かれます。何度叩かれてもへこたれずに、さらに出て、出過ぎて引き抜かれるくらいになってください。より必要とされる場所に導かれ、自分自身を磨くことができるでしょう。努力を惜しまないこと!

最後に、恩師の Mohammad Madhian 先生の言葉を贈ります。自分自身でも、常にこうありたいと思っています。 Read more, Do more, Learn more! Diligence brings intelligence!! 皆さんの輝かしい活躍に期待します。 ·····



メディア情報工学科

5 学年学科担任
タンスリヤボン ス里昂

5 年メディア情報工学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、本校に入学してから早いもので卒業の時期を迎えることになりました。様々な困難を乗り越え、本学科の教育課程のすべてを終え卒業するみなさんに心から「Congratulations!」を送ります。

さて、最後の授業ではありませんが、ここで、皆さんに一つ伝えたいことがあります。それは私の実体験です!、将来、皆さんにとって、役に立つことがあるかもしれません。

皆さんは「6ヶ月」の勉強期間があれば、人間は一つの言語を話すことが出来るようになると思います。私自身の実体験から言えば「できる」と確信しています。

それは、私が日本語学校へ通っていたときの勉強時間を計算してみると、1日6時間勉強したので、6時間×30日×6ヶ月=1,080時間(土・日・祝日も含めて)でした。来日したときは、ゼロから日本語を勉強して、木更津高専に編入学した時には不自由なく日本語でコミュニケーションを取ることができていました。自分でも信じられないくらいでした。これがたとえ日本語ではなく英語や他の言語であっても、大差なくこのくらいの時間があれば同じような成果が得られたでしょう。

6ヶ月で一つの言語を習得するには、2つの大きな条件が必要になります。一つ目はその国のモードに頭を切り替えることです。そうすると脳もそのモードに自動的に切り替わり、簡単にその国の言語が習得できるようになります。もう一つは、耳を使って「~ながら」勉強することです。つまり他の仕事を「しながら」でも、無線のイヤホンを使って、耳だけで勉強することができます。耳の方が目より疲れにくいので長時間継続して勉強ができ、上達が早いのです。将来、外国語を勉強する時には、この方法をトライしてみてください。

この方法は外国語の勉強に限らず、仕事や大学の勉強にも応用することができます。卒業後、皆さんは新天地で色々なお仕事や勉強をすることになると思いますが、短期間で上達するために、そのモードに頭を切り替えることと耳を使っての「~ながら」勉強法をうまく使って、1,080時間くらいで、仕事や勉強の達人になりますよ。最後になりますが、たまには沖縄高専に遊びに帰って来てください。心からお待ちしております



生物資源工学科

5 学年学科担任
嶺本 あゆみ

5 年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。9 期生の皆さんの、大雨が降った入学式のことや昨日のことのようで、5 年も経ったのだということが大変に感慨深く思います。これまで皆さんが 2 年生のときは学科担任、3 年のときは副担任、4 年 5 年のときは担任と、最もよく関わってきた学年だと思えます。みなさんの入学から卒業までを経て、私自身も高専でのことを一通り経験することができました。

生物資源工学科 5 年生は、お互いに助け合いながら自発的な行動ができる、大変良い空気をもった学年でした。卒業研究や就職活動などの合間を縫い、クラス一丸となって企画した高専祭の出し物は最高に素晴らしいもので、その頑張りにもふさわしい評価を得ていました。

皆さんはこれからそれぞれが選んだ道を進んでいくことになります。社会に出て、あるいは更に勉学の未知に進んで、これまでの高専生活とはまったく異なったそれぞれの厳しさがあると思います。困難に直面することもあるでしょうが、何よりも健康を第一にして、前向きに日々を乗り越えていくことを心がけてください。

沖縄高専は今後も皆さんの母校であり続けます。帰省や出張、学会など、訪れる機会があればいつでも母校を訪問してください。中には、いずれ沖縄高専と協力して共同研究や共同開発などの仕事をしたり、後輩となる在校生を企業見学やインターンシップで迎え入れる立場になる人や改めて職場の先輩になる人も現れるかもしれません。沖縄高専で過ごした 5 年を土台に、これからの人生をより良く、楽しみ、健やかに過ごしてください。

ご卒業、本当におめでとうございます。



機械システム工学科

5 学年
福原 毅之

20 年生きてきた中で一番早い 5 年間でした。今でも卒業する実感がありません。高専に入って一番良かったと感じたことは、寮生活です。1、2 年生の頃は寮外生に憧れてはやく出たいと思っていましたが、出たら出たでみんなで過ごした寮生活が恋しいです。寮生活では、登校から下校まで友達と一緒に、遅刻しそうになったら起こしてもらったり、勉強を教えてもらったりと他の学校ではできない集団生活を体験できたと思っています。

また、自分たちが卒業した後も高専にいる後輩たちに、積極的にイベントや行事に関わってほしいということをお願いしています。私は高専祭実行委員をして、高専祭の運営に携わりました。その時にできた友達、先輩、後輩とは今でも仲良いです。高専祭やイベントの運営に関わるということは自分の交友関係を広げることにもなりますし、学校全体が楽しむイベントを作る充実感、終わった後の達成感を実行委員をしていないと味わえないものだと思います。

高専を卒業するにあたって、今までの事を思い出しながらこの文章を書いています。高専で出来た友達と離れ離れになるのかと考えると辛いです。しかし、再会したときはきっと懐かしい話や驚くことがたくさんあると思うので、今からでも楽しみです。

最後に、この 5 年間お世話になった、友達、教職員の皆様、本当にありがとうございました。



機械システム工学科

5 学年
山城 拓夢

入学前は静かで真面目な人がほとんどだと思っていましたが、入学して同じ学科のメンバーを見渡すと明るい人が多いことと一人も女子が同じ学科にいなかったことにびっくりしました。寮でテスト前にみんなで集まって勉強したことや、毎日部活動のことを考えていたのが最近のこのように感じます。中学までは地元の周辺の人としか関わる機会がなかったのが、高専に来ているんな場所から来た人と友達になれたのは本当に良かったと思います。2、3 年生の時までは 5 年間も通うなんて長いなと感じていましたが、あっという間の 5 年間だったなと今なら思います。

部活動では中学までは監督やコーチなどに指導されながら練習をしていましたが、高専に来て自分たちで練習メニューを考えることは自分にとって新鮮でした。練習の成果が身を結んで試合に勝った時はとても嬉しかったです。

多くの課題が同じ時期に重なった時や難しい範囲のテストの時に、一緒に勉強してくれる友達や親切に教えてくれる先生方がいたからこそここまでこれたと思っています。また、他学科の友達と互いに何を学んでいるのかを話す機会も多くあり、いい環境で学ぶことができたと思っています。

最後になりますが、5 年間お世話になった教職員の方々本当にありがとうございました。



情報通信システム工学科

5 学年
座間味 愛樹

入学式も、ついこの間のことに感じる 5 年間であり、「感謝」という言葉なしにはとても語れない 5 年間でした。

たくさんの個性豊かな仲間に出会えたこと、2 年生から続けていた創造研究の成果発表の場としての研究発表会やフォーラムに参加させて頂いたこと、航空技術者プログラム履修第一期生として、学校の講義だけではとてもできないような体験をさせて頂いたこと、研修旅行が海外だったことで、海外に興味湧き短期留学もしました。高専に入学する前には、何事にも消極的だった私にとっては大きな成長だと感じています。他にも数え切れないほどの経験ができたことは、周りの人たちが見えないところで支えてくれていたおかげということに気づきました。とてもありがたい環境にいたことを実感しています。

友達にも恵まれていました。誰もが口をそろえて「この学年で良かった！」というように、私もそう思います。この学年だからこそ出来たこと、もちろん出来なかったこともあったと思いますが、その全てを含めて良い思い出といえます。最後の体育祭では、クラスでお揃いのちまきを巻いて、総合優勝した!!あの時の団結力も一生忘れられません。

苦勞した思い出も山ほどあります。特に定期試験が毎回ほとんど 10 科目以上だった情報生にとって、試験期間はそれはもう地獄ともいえたでしょう。それでも、私にとっては幸せな時間でもありました。低学年の頃は学科を問わず友達と勉強して、高学年になると放課後遅くまで残って教え合うというひと時が、みんなで頑張っているという一体感に包まれるのが好きだったからです。

今の自分があるのは、5 年間共に頑張ってきた仲間や私たちを想って優しくも厳しくしてくれた先生や、いつも応援してくれる家族がいたからです。この 5 年間に限らず、この先長い人生の中でも常に「感謝」の気持ちを忘れずに生きていきたいです。



情報通信システム工学科

5 学年
宮城 和史

高専での 5 年間で振り返ってみると、あっという間だったなんて気もしますが、学校内外で様々な出来事がありました。学内では、体育祭や高専祭、研修旅行やインターンシップなど楽しかった思い出がたくさん思い浮かべることが出来ます。また、学外では過酷なアルバイトに友達と挑戦しました。あの厳しいアルバイトと一緒に乗り越えた友達との思い出は一生忘れることはないでしょう笑。高専に入学したばかりの頃は、慣れない寮での共同生活、授業や実習に戸惑ったことを懐かしく思います。しかし、それも部活に入り友達ができからは充実した学校生活になりました。特に、部活は私にとって学校生活にメリハリをもたらす大きな存在でした。部活の先輩はしっかりして頼りがいがありましたし、部活動は自分たちが必要な練習を考えながら行い、後輩の私達の意見も聞き入れてくれる柔軟な部活でチーム一丸となって日々の練習を楽しみながら励んでいました。先輩方は、今でも部活の OB として関わってくださり、部活に入ることで縦の繋がりを築くことができました。一緒に部活をしたチームメイトや先輩後輩には感謝の気持ちでいっぱいです。

高専は低学年から勉強が難しく、テスト前になると焦って友達同士で集まり教えあいながら必死に勉強をしていました笑。私はこれまで支えてくれた友人や、教職員の方々のおかげで今まで充実した学生生活を送ることができました。本当にありがとうございました。卒業後、私は進学しますがこれまでの 5 年間の経験を生かし、日々精進していきたいと思っています。



メディア情報工学科

5 学年
辺士名 朝飛

小学校6年生のとき、ゲームプログラマを志していた当時の私は「高専に行くしかない！」と考え、その後無事沖縄高専に入学しました。5年といえばアメリカ合衆国大統領の任期よりも長いので卒業なんてまだまだ先だと思っていましたが、いつの間にか5年が経過し、その間に私の夢は大きく変わりました。しかし、高専に行くと決断したことは今でも正しい選択だったと考えています。

5年間の高専生活の記憶を振り返ると、まず部活動のことが思い浮かびます。私の所属していたICT委員会にはすごい方々が集まっており、そんな先輩や後輩、同級生と共にアプリケーションを作り、全国大会に出場したりしました。集団でのアプリ開発は非常に大変で苦労したことも多々ありましたが、いかにチームとしてうまく動いていくか、ということについて多くのことが学べました。また、この部活動を通してアメリカへ行き、現地の学生や企業の方々と交流する貴重な体験もしました。

部活動以外の思い出では、個性的でこれまたすごい人々の集まりであるメディアの友人たちと経験した研修旅行、楽しかったリツラかったりのPBL、高専祭での映像作品の編集やバンドなどがあります。個人的なものだと、刺激的な体験の連続だったインターンシップや、苦難の受験など……。大変なことも多々ありましたが、今となってはどれもいい思い出です。

私は来年度から県外の大学に進学します。環境が変わることに恐れはありますが、高専で学んだことを胸に、臆さず前進していきたいと思っています。

最後になりますが、これまで一緒に過ごしてきたクラスメイトの皆さん、ICT委員会の皆さん、そして教職員の皆様、5年間本当にありがとうございました。



メディア情報工学科

5 学年
上山 季美香

いつの間にか5年生になり、卒業を目の前に控えた時期になっていました。小学生だった期間とほぼ同じだけの時間をここで過ごすことになると思ったときは長いと思っていたのに、振り返ればあっという間でした。

私はこの学校で多くのことを学び、経験できたと思っています。中学の同級生のように、もし高校や大学に進んでいたらと考えることもあります。貴重な5年間をここで過ごせたことを良かったと思います。

部活動はデジタルアート部に所属し、先輩方に憧れ、自分ももっと良い作品を作りたいとパソコンで絵を描き始めたり、ロゴマークなどを作ったりと様々なことに挑戦しました。高専祭ではクラスの出し物や有志で行ったダンス、装飾局の仕事も楽しく、毎年終わる度に少し寂しく思っていました。9期メディアの皆と東京に研修旅行に行けたのは本当に良い思い出です。試験期間の度に、「次からはもっと早くから勉強を始めよう」と思いながら、毎回ギリギリになってから始めることを繰り返していました。入ったばかりの頃は住みにくいと感じていた寮生活も、今ではすっかり馴染んでしまい、友達と朝ご飯を食べることも、決まった時間に点呼をとることも当たり前のことになっています。思い出せばきりが無いくらい濃い5年間でした。

この学校で大切な友達ができたことを誇らしく思います。一緒に課題を乗り越えたり、様々なことに誘ってくれた友達には感謝されません。

また、面白い内容で授業に興味を持たせてくださった個性的な先生方、丁寧な指導をしてくださった担当教員の先生、本当にありがとうございました。

春から沖縄を出て社会人として働いていきます。沖縄高専で学んだことを活かし、努力を怠らない日々を送っていきたくと思っています。



生物資源工学科

5 学年
古謝 良人

入学当初は5年生なんて遙か未来のことだと思っていたのに、こうして卒業を迎えることになった今は、あっという間だった気がします。部活に行きつつ、目の前の課題やテストを乗り切ろうと必死に頑張っていたら、いつの間にか終わっていたという印象です。しかし、1つ1つ思い返そうとすれば、本当にたくさんのことを経験し、成長することができた5年間だったと実感させられます。

少人数の中学校出身である私は、人付き合いが苦手で、そもそもそれ自体にあまり興味を持っていませんでした。しかし、高専には先生方も含め本当にいろいろなタイプの人間がいました。髪の毛の色が様々なのももちろん、自分だけの空気感を持つ人や、私のように人付き合いが苦手そうな人、逆に活発な人など様々です。そういった方々と触れ合う中で、世の中にはいろんな人がおり、他人の価値観を受け入れることの大切さに気づけました。そして、こんな私でも受け入れてくれた友人達や、個性豊かな先生方と出会うことで人間関係も前向きに考えることができるようになりました。

ところで、私が学校生活で最も思い出に残っているのは部活の卓球です。1年生から4年生まで取り組んできました。特に4年生で経験した全国高専大会での緊張感と1勝できた喜びは今でも忘れられません。毎日のように部活を監督し、迷惑をかけ続けても激励し続けてくださった顧問の先生方には本当に感謝しています。

私は来年度から専攻科に進学するので、もう少しこの学校に在籍します。この5年間で学んだこと、経験したことはありませんが、もちろんまだまだ足りない部分もあります。プロフェッショナルな先生方に教えて頂けることを当たり前だと思わずに、精進していこうと思っています。

最後に、この沖縄高専で出会い、関わった全ての方々、そして何より、ここまで支え、育ててくれた両親に感謝申し上げます。



生物資源工学科

5 学年
奥平 ちずか

5年前の4月、私は沖縄高専に入学しました。入学式を終えて、初めての寮生活。友達ができるか、勉強にはついていけるか、どんな学校生活がこれから待っているのだろうかと期待と不安がいっぱいだったことをよく覚えています。

これまでに5年間を振り返ると、本当に色々なことがありました。

私は、「高専に入学したからには、この実験設備の整った環境を活かして何かの研究に取り組みたい」という目標を持っていました。入学当初は非常に大きく感じられたこの目標も2年生の夏、先輩方と一緒に学会にてポスター発表をさせていただく機会を得ることができ、この目標をあっさり達成することができました。この学会では、農林水産大臣賞を頂くことができました。このように、やりたいと思ったことが実現できたのは、沖縄高専だからこそだと思います。学会参加に向けて実験を行う日々はとても大変でした。しかし、先生方や先輩方の協力があつたからこそ達成できました。本当に感謝しています。そして、5年間の集大成となる卒業研究においても先生のご指導のもと、一生懸命に取り組みました。この卒業研究を通して、充実した日々と素晴らしい結果を得ることができ、先生には非常に感謝しております。研究以外の面でも、高専生活にはたくさんの思い出が残っています。学級においては、私は5年生の後学期の級長になりました。9期生物は個性が強くこれまでのイベントの際にも華々しい結果を残せたことはありませんでした。しかし、最後までいっしょにみんなで団結しようとして高専祭の総合優勝を目指して頑張りました。時間の少ない中で準備は本当に大変でしたが、はじめて皆の心が一つになったように感じました。そして、総合優勝は9期生物、私たちが発表された時の感動は忘れられません。5年間の高専生活は、楽しいことばかりではありませんでした。しかし、そんな日々も乗り越え無事に卒業を迎えることができるのも、支えてくださった先生方や友人、そして家族のおかげです。心から感謝しています。卒業後は広島大学に進学しますが、この5年間で学んだことを忘れずに、これからも努力し続けたいと思っています。本当にありがとうございました。



第1学年主任より

第1学年主任
小池 寿俊

この原稿を書いているのは、1月の半ば、学年末の後期期末試験を2週間後に控え、学生も学級担任も学年末の成績が非常に気になる頃です。試験前には課題の提出期限も多いので、学生はそれらに追われながら、そろそろ本格的に試験勉強を始めなければと、あせっている状況です。試験前になって慌てる学生を見ていて、(過去の自分は棚に上げて)普段から計画を立てて勉強すればよいのに、と歯がゆい思いがします。今年の1年生に限った話ではありませんが、定期試験前や課題の締め切り前には睡眠時間を削って頑張るけど、普段はほとんど勉強しないという学生が多いのではないかと危惧しています。

ここでは少し古い(7月20日実施)ですが、クラスでとったアンケートの結果について書かせていただきます。今も、また1年全体も同様な傾向にあると思われる。

まず1日の学習時間について、1、2時間と答えた学生が合わせて約半数いる一方で、「ほとんどしていない」と答えた学生も3割います。学生寮では毎日2時間の学習・静粛時間帯がありますが、そこで、「ほぼ2時間学習に取り組んでいる」と答えた学生が20%、約1時間が35%、「あまりやっていない」が45%です。このように、少なくない学生においては、日頃の学習習慣が身につけていないものと思われる。

1日の睡眠時間についても聞いてみたところ、8時間以上はほとんどおらず、7時間32%、6時間30%、5時間18%、4時間15%ということでした。必ずしも毎日の状況ではないとは思いますが、5時間以下でさえ3割以上おり、彼らの翌日の学校生活が非常に心配になってきます。

就寝時間以降も起きている理由としては、「スマホやゲーム」と「寝付けない」をクラスの半数近くの学生が挙げており、「課題レポートや勉強」も3割近いです。これらは、現在の学生の問題点を表しているように思えます。「課題レポートや勉強」を挙げた学生はもちろん大変な思いをしているのですが、上でも触れたように、計画的な準備・学習があまりできていないことの裏返しのようなのです。「スマホやゲーム」は社会問題でもあり、ここ数年我々も特に懸念していることです。「寝付けない」と答えた学生は心身の不調も考えられます。

ここではアンケート結果を元に1年生の心配な点を述べましたが、春休みはこれらについてもご家族で話し合っただけであれば幸いです。学生本人には1年生の1年間を振り返り、新しい学年に向けて、改めて学習習慣の確立、スマホ等との付き合い方や時間の利用方法等を、是非じっくりと考えてもらえれば、と思っています。



第2学年主任より

第2学年主任
星野 恵里子

日頃より本学の教育に関して、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。教職員一同、心より感謝申し上げます。

さて、「高専便り」第22号が皆様のお手元に届くころにはH28年度が終了しているころだと思いますが、実際にこの原稿を執筆しているのは、後期の期末試験を数週間後に控えた1月中旬です。

前期はまだ緊張感が漂い、クラスにも不慣れでお互いに距離を置いていた学生たちですが、後期になるとクラスメイトとも気心が知れ、かなりリラックスした姿が見られるようになりました。それとともに、一部の学生には「授業中に居眠りする」「提出物を提出しない」などのだらけた学習態度も目につくようになりました。また、試験の成績が思うように伸びない学生もいます。成績が不振な学生の場合、その原因を考えてみるのがまずは大切でしょう。単なる「勉強不足」であれば対策は単純明快、勉強すればいいだけの話です。学生が勉強不足で成績不良の場合、保護者や教職員がどんなに頑張っても、学生自身がやるしかありません。我々大人はせいぜい「叱咤激励」することしかできません。また、原因が別にある場合は、担当教員や担任教員、必要とあらばカウンセラーなどと面談をして対策を講じます。2年間「工業高等専門学校」で生活を送った結果、居場所は高専以外にある場合も時折あります。3年次進級を目前にして、進路変更をする学生が出てくるのはそのためです。

さて、後期はあっという間に過ぎていきます。まずは後期のメインイベントともいべき「高専祭」のための準備や話し合い、当日のクラスや部活による催し、前夜祭・後夜祭などで否が応でも盛り上がります。ほとんど教職員の手を借りずに、自主的に計画や準備・運営、また事後処理をしていく学生の姿には感動さえ覚えます。しかしながら、高専祭で浮かれてばかりいると、次に控えている中間試験で足元をすくわれれます。高専祭のような楽しいイベントと中間試験のような勉強の苦しみ(プラス楽しみ)を両立させるには、気持ちや頭の切り替えが必要です。

中間試験後はすぐ冬季休業に入りますが、リラックスした年末年始気分を払拭しないと、次に控える期末試験はあっという間にやってきます。この間、定期試験や小テストの再試験も数多く実施されます。ここで3年次に進級できるように、未修得単位をなんとかしてでも3科目以内なおかつ10単位以内に収めなければなりません。

期末試験の答案が返却されれば、混合クラスのクラスメイトとは別れを告げることとなります。3年次以降は学科別にクラスが編成され、より高度で専門的な学問へと、学生は足を踏み入れることとなります。

この1年間楽しいことばかりではなく、悲しいことや悔しいこと・苦しいことなどもありましたが、それらを大切な経験として、知性あふれる豊かな人間になるよう、我々教職員は学生を育てていきたいと思っています。今後とも、ご協力とご理解のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。



第3学年主任より

第3学年主任
神里 志穂子

11期生として入学して来た皆さんも3年次として、多くの学生が体育祭や高専祭などの学校行事を運営側として支え、学生寮においても寮生会の役員として先輩方と協力して活動している姿が目立ちました。沖縄高専を支える学生として、1人1人が自分の出来る事を考えて行動に移してくれていることに皆さんの成長を感じています。

今年は、自分が取り組みたい事や勉強に全力を尽くせた1年になったのでしょうか？ 1、2年生の時の混合学級から、専門学科のクラスになり、当初は不安を感じている学生もいたと思います。専門の授業、レポート、課題、試験、体育祭や高専祭など多くの時間をクラスの仲間と共有することで、徐々に級友との連帯感が深まり、今ではどのクラスも友人達と充実した時間を送っているように感じられます。中でも3年次の一番の思い出は、それぞれのクラスで行った研修旅行ではないでしょうか。県外、国外へと学校から外の世界へ自らが学ぶ専門分野がどのようにして企業で活かされているのか、実際の現場に見学に行ったことは、今後自分のキャリアを考えていく上で一つのきっかけになったことだと思います。皆で過ごしたこの数日間は、高専生活の中でもいい思い出の一つとして残ることでしょう。

充実した時間は、あっという間に過ぎていきます。3年生の1年間はあっという間に過ぎたと感じませんか。これから次のステージが待っています。4年次という進路を決定する前の大事な準備段階に進んでいきます。どんな新しい勉強や体験が出来るのかワクワクですね。一つ一つの出来事が皆さんを成長させ、心を強くしてくれます。4年生では、いよいよインターンシップがあります。将来の自分の進路を視野に目標に向かって舵をきっていけるよう、今までよりも自ら考え、行動することが求められます。「自分の事を一番に考えて行動できるのは今だけですよ！」この貴重な時間を大切に使う、変動の大きな社会の中でも柔軟に対応できる人間力を身に付けて下さい。

最後に、皆さんももう18歳という年齢になります。皆さんを支えてくれている家族、友達、先生、職員の方々など周りへの感謝の気持ちを忘れないようにして下さい。1人1人が大事な学生で、あなた方の成長を皆が見守ってくれています。保護者の皆様、3年次も社会に出る準備がスタートしています。彼らが自ら成長し、自らの進むべき道を選択していくためには、まだまだ皆様の温かい援助とご協力が必要です。今後とも保護者の皆様のご協力・ご支援を頂けますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



第4学年主任より

第4学年主任
バイティガ ザカリ

沖縄高専では、4年生を対象とする必修科目「インターンシップ」研修を行いました。これは、各学科で学んだ理論・技術・考え方を実際の社会において応用、実践することにより、社会に貢献できる人材の育成と起業家精神を持った学生が企業で就業体験することによって、どのようにしたら自ら事業を興すことができるのか、事業を興すには何が必要なのかなど、考える機会を与えることを目的としています。インターンシップの狙いは次の通りです。

- コミュニケーションの訓練を行うこと。
- 企業等の実態を理解すること。
- 実践を通して、製造・開発・品質管理やサービスの内容等を理解すること。
- 企業等における経営の仕組みと運営方法について理解すること。
- 高専で学んだ知識が企業でどのように活用・応用されているのかを理解すること。
- 企業が求めている人材とは何かを探り、自らの適性を考え、キャリアデザイン(career design)に活かすことができること。
- 社員から業界や仕事の詳しい話を聞くことができること。

今年度のインターンシップは、8月18日(木)～9月23日(金)の夏季休業中に2週間程度の就業体験を行いました。本インターンシップ実施に当たり、5月から学生が希望する企業に関して調査を行い、6月15日には外部講師を招き、ビジネスマナー講習会を行いました。同講習会では、企業で仕事をする上で必要とされる基本的なマナーである敬語の使い方・挨拶・電話の仕方・職場の上下関係等を学習しました。6月21日は女子学生を対象にメイクアップセミナーを行いました。7月以降は、履歴書等の申し込みに必要な書類の作成、受入れ企業への日程調整、服装、注意点の事前確認を行いました。本インターンシップは授業の一環であることを各インターンシップ担当教員から学生に理解させ、謙虚な姿勢で、そして、学生なりに目的意識をもって、就業体験に臨みました。下記が、今年度の各学科インターンシップ担当の教員です。

機械システム工学科：津村 卓也 先生
情報通信システム工学科：藤井 知 先生
メディア情報工学科：バイティガ ザカリ 先生
生物資源工学科：三宮 一幸 先生

インターンシップを通じて学生が学ぶことができたことは、次の通りです。

- 学習目的の明確化
- 就業意識の向上
- 就職のための情報源
- 責任感、自立心、協調性の育成
- 仕事に必要な知識・技術・意識など

インターンシップを終え、学生が無事に沖縄に戻り、10月には各学科でインターンシップの報告会を行いました。それぞれの学生がインターンシップ先での体験を発表し、全員でそのことを共有することができました。学生全員がお世話になった受入企業、教育・研究機関へ感謝の気持ちを持って笑顔で発表していました。インターンシップ実施に当たり、ご協力くださった多くの企業、教育・研究機関、そして4年次担任の先生方に深く御礼を申し上げます。

インターンシップの発表後、来年の就職・進学活動に向けて企業、大学からの説明会・講演会を行いました。企業に関しては12月14日(水)と2月14日(火)に4時間ずつ本校体育館で業界研究会を開催しました。本業界研究会にご参加した企業数は約81社で、「メーカー」企業をはじめ「IT情報処理・通信」「エネルギー」「電気・電子」「機械系」「技術系エンジニアサービス」の業種でした。

学生一人一人が自分の興味のある分野に関係する企業ブースに行き、担当者の説明をしっかりと聞きながら積極的に質問する様子を確認することができました。本業界研究会に加え、企業採用選考のひとつとして適性試験やSPI試験によるWeb模擬試験を実施しました。

最後に今後の予定ですが、現4年生全員の就職先や進学先が来年度の早期に決まるように、指導していきたいと思っておりますので、保護者の皆様におかれましては、ご支援、よろしくお願い申し上げます。



業界研究会開始前の様子



業界研究会開始後の様子



機械システム工学科

4 学年
新垣 勇飛

私は、茨城県にある新日鉄住金の鹿島大形工場で行われたインターンシップに参加しました。この企業は、鉄鋼業界の世界ランキング第二位で私達の身の回りの鉄製品の原料のほとんどがこの企業で生産されています。ここで二週間すごして、実際の業務内容を学ぶことができました。

新日鉄住金のインターンでは鹿島製鉄所の部署のひとつである形鋼技術室にお世話になりました。インターン生は20名以上いてほとんどが大学院生でした。他のインターン生とは部署が異なったため業務は別でした。今回のインターンではH形鋼や鋼矢板などを作る鹿島大形工場での加熱工程（鉄を暖めたまま軟らかくする）に着目しました。最初の2、3日は工場見学と資料の読み込みを行って、その間に工場の人をお願いして加熱炉内のデータを取ってもらったり、解析室の方々に加熱炉内の流体解析をしてもらいました。このとき学んだのは、仕事は1人で行うことは出来ないということ。それぞれの人が専門分野を担っており、協力しなければ会社として立ち行かないことを知りました。

データを取ってもらった後はそのデータをひたすらまとめていました。如何に少ないエネルギーで鉄を加熱するか、そのためにどんな工夫をすればよいのか、他の製鉄所ではどのような取り組みをしているのか等のデータを集めて、それらを鹿島大形工場の加熱炉に導入したとき、どうなるかということを実際に計算して一年でどのくらい儲けができるかを確認しました。また設備の導入にかかる資金を何年で取り返すことができるかの試算も行い、会社という大きな組織で如何に儲けを出すかが重要であると学びました。

今回のインターンを終えて、「人」「物」「金」の三つが問題解決の鍵になるということ学ぶことが出来ました。業務以外でも知り合った大学院生の皆さんや担当者として面倒を見てくれた方々から多くのことを学ぶことの出来た二週間でした。

私はこのインターンで、より強く就職したいと思いました。これからインターンシップに行く皆さんは就職したい企業のインターンに行くべきです。予め業種だけでも決めてインターンにのぞんでください。そうすれば自分の納得のいく就職ができるはずです。



機械システム工学科

4 学年
川満 悠里

私は航空分野にとっても興味があったので、航空整備会社のインターンシップに参加しました。また減多にない機会だと考えたので、夏季休業期間中にe.TEAM ANA、MRO JAPAN、JTAの航空整備会社三社のインターンシップに参加しました。このインターンシップで、飛行機の仕組み、不具合の生じた飛行機が整備されて離陸するまでの流れ、会社の雰囲気、整備士さんの考え、などを学ぶことができました。私は平成27年度に沖縄高専に設立された、航空技術者プログラムの2期生として履修しています。本プログラムでは、飛行機の原理、しくみ、構造、飛行機の各部の名称、などを学んでいます。これらを学ぶ中で、なかなか覚えられないものやよく理解できないものなどがいくつもありましたが、このインターンシップを通して、実際の飛行機を間近で観察し、整備士の方から直接話を聞くことによって、それらが解決され、知識がより深くなりました。インターンシップを通して一番感じたことは、整備士さん一人一人が安全に対する意識が強いことです。整備中は、飛行機を安全に飛ばすために様々なところに気を使い、絶対に事故をおこしてはならないという気持ちが前面に出ていて、真剣そのものでした。また整備作業前には、自分の服装をチェックし、ラジオ体操を行い、作業中の確認や報告などをお互いに頻繁に行うなど、整備作業をするにあたって事故が起きないように工夫と努力がなされていました。整備士の方には高専出身の方もおられ、その方々がどういった経緯で整備士になられたのかやアドバイスなども聞くことができました。インターンシップは自分で会社に掛け合い、ホテルを予約し、チケットを予約するなど、実習以外にも学ぶことがあり、沖縄では体験することができない電車での通勤なども体験することができ、短期間で多くのことを学ぶことができます。この夏季休業中に学んだことは、私のこれからの進路に大いに生きてくると信じています。後輩の皆さんもなるべく早めに自分の行きたい職種、会社を自分で調べて、より有意義なインターンシップになるように努力してください。



情報通信システム工学科

4 学年
野口 拓郎

私は、鉄道分野に非常に興味があり、この度のインターンシップでは沖縄都市モノレール（ゆいレール）と長野県のしなの鉄道の2つの鉄道会社にインターンシップで5日間お世話になりました。また、今回私は、沖縄高専のリストからの選択する学校紹介型ではなく、自分で（もちろん先生の協力もありました。）企業にアポを取りインターンシップ先を決める自己開拓型というもので2社をインターンシップ先に選びました。沖縄都市モノレール（ゆいレール）は主に鉄道の技術に関すること、特に、保安装置、運行管理、保守管理について座学、施設見学などを通して学習しました。普段では入ることのできない鉄道の運行管理室（鉄道の運行における心臓部）や鉄道変電所施設、車両基地などの見学を行いました。しなの鉄道では駅員の業務を体験しました。沖縄都市モノレール（ゆいレール）のインターンシップとは異なり、実際にしなの鉄道を利用されるお客様と接する仕事内容でした。また、私がインターンシップを行っている間にG7主要国交通大臣会合が行われ通常業務とは異なる業務も体験することができました。運が良かったです。（笑）

2社の共通点として、仕事量の多さがありました。また、時間にも非常にシビアで1分単位の業務内容シフトが組まれていたことが印象的でした。しかし、限られた時間の中で、効率よく正確な業務を行っている全ての社員の方がスペシャリストであると感じました。今回のインターンシップでは、2社のたくさんの方々のお話を伺うことができました。どの社員の方も「大変なこともいっぱいあるけど楽しい」とおっしゃっていました。私にとってこの度のインターンシップは非常に良い刺激になりました。

最後に、これからインターンシップに行く皆さんへ。インターンシップで視野が想像以上に広がります。来年の4年生は必須科目となりますが、単位ではなく将来を考えてインターンシップ先を決めてほしいと思います。社員の皆さんとおしゃべり、業務以外のおしゃべりも私は重要だと思っています。県外の企業に行く際は沖縄ねたをたくさん蓄えておくことを強くおすすめいたします。（笑）



情報通信システム工学科

4 学年
石原 杏奈

私は8月下旬の8日間、富士電機株式会社の東京工場にお世話になりました。

富士電機は「発電・社会インフラ」「産業インフラ」「パワーエレクトロニクス」「電子デバイス」「食品流通」の5つの事業を通じて、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献している会社です。

私はそこで実際の工場や大企業の雰囲気、また、OB・OGの活躍を見たいと思い、今回のインターンシップを希望しました。

実習では、シーケンス実習を行いました。課題設計・製作・PLCとの組合せ・試運転と一連の流れを体験させていただきました。授業でもしたことがあるシーケンス制御とはいえ、ハードシーケンスの設計・製作は初めてだったので、わからないことばかりで大変だったのですが、同じ班の他高専の実習生と話し合ったり、担当の方が優しく教えて下さったので、きちんと理解しながら課題を達成することができました。

最終日には社員の方との懇談会もあり、おいしいものを食べながら和気あいあいとお話することができました。そこでは実習中には聞けなかった、入社したきっかけや学生時代のお話などを聞くことができました。また、同じインターン実習生とも仲良くなり、今でも連絡を取り合うほどの良き友人となりました。

今回のインターンシップでは、社会人としての責任の重さや、コミュニケーション能力、勉強の大切さなど多くのことを学ぶことができました。インターンシップで学んだことをきちんと自分のものにできるように、これからも頑張っていこうと思います。

これからインターンシップへ参加する皆さんは、不安もあると思いますが、受け入れてくれる企業の皆さまはとても親切で優しいので、安心して実習に取り組んでいってください。



メディア情報工学科

4 学年
崎山 媛可

私は9月の中旬の5日間、沖縄県内にある株式会社ビーンズラボさんのインターンシップに参加しました。この企業は主に、webアプリケーションの開発を得意とする企業です。また、開発だけでなく、開発後の運用・保守フェーズなど幅広い体制で支援を行う企業です。

インターンシップの内容は、インターン実習生4名が2人1組のチームになり、ログイン画面とユーザー一覧画面があるユーザー管理アプリを期間内に作成し、社員さんの前で発表することでした。ユーザー管理アプリは、RubyのフレームワークであるRuby on Railsを使用して作成しました。初日は授業等では習わなかった『フレームワーク』という概念、顧客の情報を管理する上での注意点や大切さを学びました。初めて触るフレームワークに戸惑い、初日は慣れるのに一生懸命でした。2日目からは、ある程度慣れてきて、チーム同士で「どんな画面にするか」や「どんな配置にするか」と使いやすく、見やすいか」などアプリの細かい内容等話し合いながら具体的にしていきました。作業中に問題や疑問点が出てきたときは、社員さんなどに丁寧に教えて貰ったり、なんとか期間内に完成させることが出来ました。業務以外にもインターン生の歓迎会などもあり、年齢の近い社員さんなども沢山お話が出来たのでとても充実した5日間でした。

今回のインターンシップでは、IT業界の中でも前から興味があったwebアプリケーションの開発を体験することができ、将来就職するときのイメージを掴むことができたと思います。また、この5日間を通して、進捗管理やプロジェクト終了後の対応等が大切なことだと学ぶことができました。毎日1日の終わりに今日自分が出来たことと途中までのもの、これからやるべきことなどを纏めることで、次の日の作業が始めやすく、作業効率を上げることができます。プロジェクト終了後の対応として、『KPT(Keep Problem Try)法』を活用し、その後の自身やチームを大きく成長させることができたことがわかりました。

これからインターンシップに参加する皆さんへ。インターンシップは、その業界や業種を間近でみることができ、直接企業の方に話を伺うことができる大切な機会です。自分の将来を考えながら、真剣に考えてインターンシップに参加してください。



メディア情報工学科

4 学年
仲程 優貴

私は平成28年8月29日から9月9日まで横浜市にある企業でインターンシップをしました。期間中はグループで自動車の部品受注システムを作成しました。各メンバーに担当の画面が割り当てられ、私は、新規登録画面を担当しました。グループでのシステム開発や外部設計書の作成を通して、作成者がいなくても相手に伝わるような文章を書くことや、ソースコードへのコメントをつけることの大切さを学びました。

インターンシップに行く前は、県外にひとりで行くことが初めてだったので、電車の乗り方や会社まで辿り着けるか、また、2週間以上もひとり知らない土地で過ごせるかといった不安がありました。実習に対しては、JavaやSQLなどのあまり使ったことのないプログラミング言語での開発だったため、与えられた課題を最後までこなせるか不安に思っていました。実際は、同じグループのメンバーと食事や通勤する機会も多かったため、県外での生活の不安も数日で無くなり、実習で分からない箇所があれば、講師の方たちが常に対応してくれたため、あまり不安になることなく実習を成し遂げることが出来ました。

企業でのインターンシップに行くことで、学校で学んでいる内容の重要性を再確認できました。また、企業での開発と授業で取り組んでいる開発との違いや、企業に対して興味をもってのイメージの具体化や、自分がやりたいことを見つけることができたため、とても良い機会でした。インターンシップを終え、これからの高専生活では、分からないことや気になることはメモをとり、先生や友達、インターネットで調べるなどして、能動的に解決していくようにしていきたいです。

先輩のみさんがインターンシップに行くときには、インターンシップを希望する企業や、その企業の情報、会社までの経路、必要なものを後回しにせず、出来るだけ早く準備した方がいいと思います。特に県外のインターンシップに行く人は、期間中は不安なことだらけだと思いますが、普段学校では体験できないような経験を得られるチャンスなので、楽しんで欲しいです。



生物資源工学科

4 学年
和泉 七海

私は、インターンシップで企業と大学の両方への訪問を志望しました。なぜ、2カ所のインターンシップを希望したかという点、企業と大学の違いを実際に体験することで進路選択の参考にとしたいと考えたからです。

1カ所目はタイのバンコクにあるキングモンクット工科大学バンコク校で9高専連携プログラムを利用して8月中旬から2週間お世話になりました。期間中は大学内にある学生寮へ宿泊しました。研修内容は、工学科での体験講義の受講や国立研究センターの施設見学、KMUTNBの姉妹校への訪問を行いました。大学の学生の方が毎日付き添ってくださり、講義での質問や文化の違いについての会話などを通して密な交流を行うことが出来ました。プログラムに参加するにあたり、英語への「文通りの英語を話さなくてはいけない」という苦手意識で不安を抱いていましたが、学生さんが積極的に会話をもちかけて下さり、「教えて」「もっと知りたい」とつたくなりました。また、環境文化の違いから私の中の常識が覆されることも多くありました。今回の渡航で、初めての事にチャレンジする意欲や、日本内や海外への興味、普段気付かない身近なことへの関心が高まりました。

2カ所目は沖縄県に本社を持つクロックワークという企業に9月未受けた4日間お世話になりました。クロックワークは食品衛生管理を受け持つ企業で、厨房の衛生管理サポート、商品の適正賞味期限調査、静電システムの開発を行っています。研修内容は営業部に配属され直接お客様の下へお出かけしました。営業部での研修は、食品の衛生に関わる微生物の知識をいかに、どのよう改善を行えば良いかを分りやすくお客様に伝えることが重要だと学びました。学科柄よく用いるため身近な存在であった微生物ですが、それを知らない人に伝えるためにはその認識の違いを意識する必要があります。これを学ぶことは、将来、認識を提供する側になった時にその意識を大切に出来ればと思います。

今回のインターンシップで2つの環境に触れることで、自身の将来やりたい姿がより明確になりました。引率の先生方や渡航先の学生さんや先生方、クロックワークの社員の方など、多くの方にサポートして頂き、進路について考え、必要な技術に気付くことができた貴重な機会を頂けたことを、とてもうれしく思います。今後は、目的に向けて残り少ない学生生活に励みます。



生物資源工学科

4 学年
鈴木 明香里

私はこの夏、岐阜県高山市に工場があるテバ製薬株式会社にて5日間お世話になりました。全国から25人の高専生が本インターンシップに参加していました。工場見学、包装作業業務、グループワーク、先輩社員との交流などの研修に取り組み、とても充実した5日間を過ごしました。

工場見学や座学では、コスト・品質・供給のバランスが取れていることによって、安心して服用できる医薬品を安定して供給できるということを学びました。また、そのバランスを保つために、パソコンで効率化を図る、人員の配置を工夫するなど日々改善を行っているという話しを聞き、問題を見つけ、解決する力が社会で求められているということを感じました。

グループワークでは、他高専の学生と意見を交換する際に沖縄高専の特色である課題解決型学習(PBL 授業)で身につけた意見の伝え方やまとめ方を学外でも活かしていると気づき、高専での学びが社会の中で役に立つということを実感しました。

今回、インターンシップに参加して一番良かったと感じた点は、働く人の声を直接聞けたことです。仕事への誇り、部下・学生を育てたい、広い分野に渡って知識を深めたい、といった思いを伝えてくださった社員の皆様から、たくさんの刺激を受けました。今まで、私は進路について、就職活動をどう動くかということばかりを考えていましたが、実際に企業でどのように働きたいか具体的に考えるようになりました。

インターンシップは、今まで高専で学んできたことを振り返り、自分の将来について考える非常にいい機会になりました。インターンシップでの気づきや学びを今後活かしていきたいです。エントリーシートへの添削や情報提供をしてくださった先生方、受け入れて下さったテバ製薬株式会社の皆様に心より感謝しています。

就職・進学状況

【平成 29 年 3 月卒業予定者の進路状況】

平成 29 年 3 月 1 日現在

	区分	学 科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業予定者数	35	40	39	36	150
進学状況	進学希望者数	12	15	13	21	61
	合格者数	11	14	13	18	56
	うち専攻科合格者数	8	7	8	6	29
	うち3年次編入等合格者数	3	7	5	10	25
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	2	2
	進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	91.7%	93.3%	100.0%	85.7%	91.8%
	進学先※	沖縄工業高等専門学校専攻科(8) 豊橋技術科学大学(3)	沖縄工業高等専門学校専攻科(7) 長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学 千葉大学 大阪大学 琉球大学(2) 千葉工業大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(8) 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学(2) 九州工業大学(2)	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 長岡技術科学大学(3) 琉球大学(4) 信州大学 広島大学 東京工業大学 国立音楽院 沖縄リハビリテーション福祉学院	
内々定状況	就職希望者数	23	25	26	15	89
	内定者数(内々定含む)	19	23	26	13	81
	内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	82.6%	92.0%	100.0%	86.7%	91.0%
	就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業	沖縄電力株式会社	MRO Japan 株式会社 日本トランスオーシャン航空株式会社 沖縄菱電ビルシステム株式会社	有限会社パッション・プロモーション 沖縄富士通システムエンジニアリング株式会社 リウコム 沖電グローバルシステムズ株式会社 株式会社ODNソリューション	沖縄森永乳業株式会社	
		計 1 名 内々定者に占める割合 5%	計 3 名 内々定者に占める割合 13%	計 5 名 内々定者に占める割合 19%	計 1 名 内々定者に占める割合 8%	計 10 名 内々定者に占める割合 12%
	就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業	富士重工工業株式会社 東亜工業株式会社 ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 株式会社豊田中央研究所 富士テクノサービス株式会社 新日鐵住金株式会社 株式会社東海精機(2) 旭化成株式会社(2) 東芝メディカルシステムズ株式会社(2) テンチ産業株式会社 出光興産株式会社 Peach Aviation 株式会社 ベアック株式会社 矢崎総業株式会社	ムラテック C C S 株式会社 アマゾンジャパン合同会社 新日鐵住金株式会社 出光興産株式会社(3) 大阪ガス株式会社 LINE デジタルネットワークアプリケーションズ株式会社 日本アイ・エム・ソリューションサービス株式会社(2) ダイキン工業株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 株式会社エヌエイチケイメディアテクノロジー ニフティ株式会社 株式会社 RKK コンピュータサービス リコージャパン株式会社 ジョンソンコントロールズ株式会社(2) 株式会社 NTT ファシリティーズ 千代田計装株式会社	株式会社ネオジャパン NEC フィールディング株式会社 NTT コムエンジニアリング株式会社 株式会社セゾン情報システムズ 株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 株式会社日立ハイシステム 2 1 (2) ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社 株式会社クリエティブキャスト パナソニックエレクトロニクス株式会社 ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社 朝日インテック株式会社 株式会社日立システムズ 東洋システム開発株式会社 タボット株式会社 株式会社コンピュータマインド 富士ソフト株式会社 株式会社コナミデジタルエンタテインメント 株式会社ヴィッツ 株式会社メンバーズ 株式会社 RKK コンピュータサービス	第一三共プロファーマ株式会社 花王株式会社 三洋化成工業株式会社 沢井製薬株式会社 出光興産株式会社 サントリービール株式会社 キリンビバレッジ株式会社 日本特殊研砥株式会社 かめや釣具株式会社 東京貿易メディシス株式会社 株式会社インテリム 株式会社 SPG ホールマン	
		計 18 名 内々定者に占める割合 95%	計 20 名 内々定者に占める割合 87%	計 21 名 内々定者に占める割合 81%	計 12 名 内々定者に占める割合 92%	計 71 名 内々定者に占める割合 88%

※：同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

【平成 29 年 3 月修了予定者の進路状況】

平成 29 年 3 月 1 日現在

区分	コース				合計
	機械システム 工学コース	電子通信システム 工学コース	情報工学 コース	生物資源 工学コース	
修了予定者数	5	5	2	5	17
進学希望者数	3	1	0	2	6
合格者数	2	1	0	2	5
うち大学院等 進学予定者	2	1	0	2	5
進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	66.7%	100.0%	—	100.0%	83.3%
進学先※	言語技術科学大学大学院 東北大学大学院	北陸先端科学技術大学院 大学		長岡技科大(博士課程) 長岡技科大(修士課程)	
就職希望者数	2	4	2	3	11
内定者数 (内々定含む)	1	4	2	2	9
内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	50.0%	100.0%	100.0%	66.7%	81.8%
就職先企業名※ (県内) 県内に本社が ある企業	内閣府沖縄総合事務局	沖縄薬電ビルシステム 株式会社			
	計 1 名 内々定者に占める 割合 100%	計 1 名 内々定者に占める 割合 25%	計 2 名 内々定者に占める 割合 0%	計 2 名 内々定者に占める 割合 0%	計 2 名 内々定者に占める 割合 22%
就職先企業名※ (県外) 県外に本社が ある企業		富士電機株式会社 ANAラインメンテナンス テクニクス株式会社 株式会社協和エクスオ	株式会社3Dコミュニケーション システム 株式会社リクルート ホールディングス	沢井製薬株式会社 日本特殊研砥株式会社	
	計 0 名 内々定者に占める 割合 0%	計 3 名 内々定者に占める 割合 75%	計 2 名 内々定者に占める 割合 100%	計 2 名 内々定者に占める 割合 100%	計 7 名 内々定者に占める 割合 78%

※. 同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。



専攻科修了生に贈って いるつむりの言葉

専攻科長
眞喜志 治

専攻科修了生の皆さんは、沖縄高専に対する愛情を持っていてくれるでしょうか？沖縄高専の教職員に愛情を持っていてくれるでしょうか？あるいは、皆さんに向けた沖縄高専の、沖縄高専教職員の愛情を感じることはできたでしょうか？立場上、皆さんの本音を聞く機会が多く、情けない気持ち、申し訳ない気持ちになることの方が多くありました。その度に、「何とかしなければ！！」と思うのですが、いざ、行動に移そうとすると、無駄に高い壁に悩まされるばかりで、立ち止まることしかできませんでした。在学中は、不平不満を多々抱えていたものと推察しますが、それらを口にしながらも、やるべきことには責任を持って取り組んでいる皆さんの姿には、とても感心し、個人的には学ぶべき多くのことを与えてもらったように感じています。そんな皆さんですから、沖縄高専を外から改革する原動力となってくれるのではないかと期待せずにはいられません。皆さんは、沖縄高専に対して物申す権利を持っていて、そのまとも役が皆さんも加入する同窓会だと考えています。しかし、歴史が浅いという理由からなのか、その存在や意義が軽んじられているように感じています。そもそも同窓会とは、巣立っていった卒業生たちが母校(そのように定義してもらっているか心配ですが)を大切に思う気持ちから成り立っているものと認識しています。もちろん、一方通行の思いではなく、卒業生が学校を、学校が卒業生を思う双方向の心ある思いが必要でしょう。「同窓生」は“一塊”ではありますが、“一人”ではありません。沖縄高専を巣立った同窓生は、それぞれの場所で、その人なりの活躍をしているはずで、それぞれの経験を集めて、そこから意見や提案を作れば、意義のある言葉を発信することができると思います。また、そうすることが、沖縄高専を愛し、沖縄高専で学んだことを誇りに思うことにつながるのだと思います。そして、皆さんの積極的な働きかけが一日でも早く、僕を普通の教員に戻してくれるものと期待しています。

これからの長い人生の中で、様々な経験をするようになることは容易に想像できますが、沖縄高専で過ごした7年が、とても掛け替えのないものであったと思う日が、皆さん一人一人の胸に訪れる日が必ずやってくることを信じて、皆さんの歩みを見守りたいと思います。

修了にあたって



機械システム工学コース

安里 冠人

高専7年目の二月に入ろうとしています。相変わらずテスト当日までに最終報告書が1つレポート3つの提出を控えており、最後まで機械科のブレない姿勢を感じています。こうした状況の中で自身のこれまでの高専生活を振り返る前に、自らの課題を仕上げなければならないのですが、これまでの高専生活を振り返ると似たような状況ばかりにおかれていた7年間でした。

しかしながら、どんなに課題やテストが多く辛い状況になっても遊ぶことを優先した7期機械科の素晴らしい友人に囲まれた環境のおかげでとても楽しい高専生活を送ることができました。

高専入学当初から思い返してみると非常に個性豊かで刺激的な友人にかこまれ学業以外にもとても多くの経験と思い出を得ることができ、退屈など感じるまでもなく、あっという間に5年間が過ぎていったように感じます。専攻科に入学後はカリキュラムに振り回され1年間で特別研究の発表を4回も行うなど厳しい状況に置かれることもありましたが、その厳しい研究活動を通して自身のスケジュール管理能力やプレゼンテーション能力などを養うことができ、厳しいながらも爽りの多い専攻科生活を送ることができました。

専攻科入学当初は自分の進路についての悩みや迷いが多く迷走していた時期もありましたが、そんな中自分を支えてくれた両親、きつい状況にあっても全力で遊び気持ちを切り替えさせてくれた友人達、また優秀とは言えない私の特別研究にとても熱心にご指導頂いた先生に深い感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



情報工学コース

増 千絵

不安な気持ちでいっぱいになりながら沖縄高専の校舎に足を踏み入れて、早いものでもう7年という月日が経とうとしています。高専で過ごした期間は小学校の6年間よりも長いはずなのに、本当にあっという間だったように感じています。それくらい私にとって高専生活は、とても楽しく充実したものでした。

「修了にあたって」とのことなので、本科時代の話はおいしいとて専攻科での衝撃的だった話をしたいと思います。私が専攻科に入って一番衝撃的だったことは、学生の数です。私たちの代の専攻科生は全コース合わせても16人、本コースはたった2人しかいません。そのため、本科の時は40人以上で受けていた授業も半数以下、場合によっては1人で受けることもあり、最初こそは「授業についていけないかな…」と不安を感じたこともありましたが、しかし実際に授業を受けていくと、今まで話したこともなかった他コースの方に助けてもらったり、授業内で積極的に質問出来たりと、本科の時に比べて濃い時間を過ごすことができました。

希望した企業にも内定が決まり、4月からはいよいよ社会人として働きます。相変わらず不安な気持ちでいっぱいですが、沖縄高専で培った知識や技術を武器に一生懸命頑張っていきたいと思っています。

最後に、これまで熱心に指導してくれた先生方、7年間をともに過ごした友人、ずっと支え続けてくれた両親に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



電子通信システム工学コース

神谷 潤

沖縄高専での7年間がやっと終わりを迎えます。入学当初は、まさか小学校より長い間辺野古まで通学することになるとは考えもしていませんでした。専攻科での2年間を振り返ってみると、講義の中でテーマパークのガイドアプリを他コースの学生と協力して製作し、本科では経験できなかった3ヶ月に渡る長期インターンシップへの参加、学外での研究発表など様々なことを経験することができました。

特に長期インターンシップ期間中は、毎日スーツを着て出勤し、就職活動が始まる前の学生のうちに社会人のような経験ができ、特別研究に追われることもなく、普段の学校生活では得られない多くのことを学ぶことができました。長期のインターンシップへの参加が本校で初めてだったこともあり、前例が無かったため不安も多かったです。しかし、短期の場合だと、会社概要の説明や部署ごとの紹介のみが多く、実際の業務内容が分かりにくい部分もありますが、3ヶ月という長期間であるため、業務に必要な基礎知識を習得した上で、実際に社員が行っている業務に近い内容を体験することができました。ただ一つ、秋から冬にかけて県外での長期インターンシップに参加したため、雪が見られることを期待していましたが、残念ながら全く雪が降らなかったことが心残りです。

就職活動や学位の申請、特別研究がうまく進められず大変なこともありましたが、今となっては自分を成長させるきっかけになったのを感じることばかりです。最後になりますが、特別研究でお世話になり、長期インターンシップに挑戦する機会を与えてくださった担当教員や、受け入れてくださった企業の方々、そして本科の頃からご指導くださった先生方へ感謝いたします。本当にありがとうございました。



生物資源工学コース

佐久本 太一

沖縄高専に入学して7年も経とうとしています。今思えばあっという間だったようで少し長い7年間でした。入学した頃から田舎の辺野古から離れて都会の方で生活がしたいなんて思っていました。

が、いざ離れると思うと何故か少し寂しい気がします。本科に入学して当初は「勉強なんて好きじゃないから本科で卒業してさっさと就職してやる」なんて思っていました。3年になり専門科目が増えてくると「やっぱり本科だけじゃなくてももう2年くらい勉強しようかな」なんて気持ちになり4年になる頃には「大学院まで行こう!!」なんて思うようになっていました。我ながら心変わりの早いヤツだったと思います。今思えば私が進路を決めるきっかけと言えばどれもホントに些細なことでした。友人とした会話であったり、先生の何気ない話であったり偶然参加してみた講演や学会での出会いや話であったり。「人生何があるかわからない」何度でも使われた言葉ですがホントにその通りだなと思います。自分が何気なくした行動が色々な人との出合いを生み将来への道を開きました。「たった一歩踏み出す行動力」これを胸にこの先も頑張っていこうと思います。

しかし、私が7年間の高専生活で後悔していることと言えばきちんと計画的な行動が出来ていなかったことや将来に向けての情報収集や努力を怠っていたことです。高専生活の中では専攻科が上がってからも計画的な行動ができていなくてもあつたして周りに迷惑をかけたばなしでした。それに進路を決める時になって今思えばあの時将来を見据えてもっと必死に情報収集や学力を上げる努力をしていればまた違う道が開けていたのではないかと。後悔しても何も変わりませんがそんなことを思ってしまう。いくつかの道の中からこの進路しか選べないから選ぶのではなく数ある道のなかからどの進路でも行けるさあどれに行こうか。そういう風になりたかった。私は専攻科を修了後、大学院へ進学することになっていますが大学院生活の中でも計画的な行動と常に情報収集と自らを高める努力を怠らないように無駄なく日々を過ごしていきたいと思っています。準備はいいからしても過ぎることはない。

それでは本気で最後まで迷惑をかけたばなしでしたが担当教員の田邊先生をはじめお世話になった先生方、また楽しい日々を共に過ごした同級生たちに感謝をしてもしきれません。ありがとうございました。

第12回高専祭



高専祭実行委員長
機械システム工学科4年
上村 謙介

今年度、高専祭実行委員長を務めました、4年機械システム工学科の上村謙介です。今年度の高専祭は、11月5日～6日の2日間を開催日とし、縁日・屋台・劇・映像作品・お化け屋敷などのクラス企画やライブ・ダンス・ジャズバンドなどのイベントで盛り上がりを見せ、大成功いたしました！

今回で12回目となる高専祭では、「一祭！合祭！高専祭!!」をテーマに、パンフレットやポスター、構内の装飾や学校の敷地内のスペースを最大限に活用したイベントの企画などに力を入れました。なかでも実行委員主催のイベント、「高専神社」、「フォトコンテスト」、「コピーユニットコンテスト」、「スイーツ早食い」は、観て楽しい、参加して楽しいイベントとして大いに盛り上がりました。また、高専祭実行委員のSNSアカウントを開設し、高専祭のプログラムや屋台の売り上げ情報をリアルタイムで周知することで集客率をあげることができました。

私たち実行委員は「最高に楽しい高専祭」を目標にしてきましたが、その目指す目標・クオリティが高く、実現に至るまでとても大変でした。しかし、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの方々、先生方のご協力により高専祭を無事に作り上げることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

そして最後に、第12回高専祭開催にあたり、最後まで実行委員長である私を支え協力してくださった、書記・副実行委員長・各局長・高専祭実行委員の皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました！！

来年度も是非、自慢の後輩達が作る『最高に楽しい高専祭』にお越しく下さい！



メディア情報工学科2年
金城 拓登

シリコンバレー研修

私は、去年の夏に Ryukyufrogs8 期生としてシリコンバレーへ行きました。シリコンバレーでは、日本とは全く異なる文化の中で戸惑いながらも、自分をもう一度見直すことで自分自身が大きく成長できた10日間となりました。現地には、世界を代表する Google, Apple, Facebook, Twitter など現在の IT 業界を牽引している巨大企業や、起業したてのスタートアップが数えきれない程ありました。私たちは、それらの企業で働いている人に、私が開発しているサービスの説明を行い、意見をもらうことでサービスのフラッシュアップを行いました。その中で、アメリカと日本の人の考え方の違いに気づきました。シリコンバレーで働く人々は社交的で、とてもポジティブに物事を考える人が多く、学生の私のサービスでも、どうしたら実現できるのが自分の事のように一生懸命考えてくれました。日本の企業に行き、同じようにサービスの話を聞いてもらおうとしても本気で聞いてくれるかわかりませんし、学生の相手をしてくれないということも考えられます。私はこの両者の違いこそが、近年の日本が世界から差をつけられていると言われている原因ではないかと思いました。シリコンバレーでは、若者を受け入れる文化がとても大きく、学生の私でも社会の一員として敬えられているという日本では感じたことのない不思議な感覚を感じました。若者を受け入れる文化があることで若者たちが社会を変えようと積極的に社会に参加することで、社会が常に新しく、最先端であり続けられるのだと思いました。また、この開放的な社会で私は自分と向き合うという事ができたと思います。周りの大人たちが真剣に私たち学生と話をしてくれるので、自分そのものを直に考える事ができたと思います。私は、私の軸が「起業して世界を幸せにすること」だと改めて確認する機会になりました。そして、「シリコンバレーで起業したい!」と思うようになりました。



日本サンゴ礁学会第19回大会で優秀ポスター賞を受賞

去る12月1日(木)から4日(日)まで、沖縄タイムスビルにて開催された日本サンゴ礁学会第19回大会にて、東工大などからの大学院生も参加するなか、専攻科生物資源工学コース1年の善岡祐輝君が、優秀ポスター賞を受賞しました。

高専生の優秀ポスター賞の受賞は、善岡君が初の快挙になります。善岡君は、「この研究では、ココビドリイシ (*Acropora digitifera*) 種内において高温ストレス応答に違いがあることを見いだすことができました。これまでの先行研究では、種間では白化のしやすさに違いがあることは報告されていましたが、同じ種内においても白化しやすい群体とにくい群体、白化から回復しやすい群体と回復しない群体が存在することに着目し、フィールドでのモニタリングと、モニタリングした群体由来のクローンを飼育し形質評価(成長率、光合成効率の測定)をすることでその傾向を明らかにすることができました。その傾向とは、成長率の高い群体、(いわばスーパーコーラルとも解釈できる)は白化しても回復しやすいということでした。今回の実験では、フィールドから実験室にまたがってサンゴを生とデータの両視点から観ることができ、今までよりもサンゴへの理解が深まったように思えます。今後は最新のテクノロジーの応用と持ち前の若さを武器に、多くの発見を見出ししていきたいです」と、更なる研究の推進に強い意欲を示しており、今後の活躍が期待されます。



賞状を持つ善岡祐輝君(左)と安藤安則校長

ロボット製作委員会

ロボット製作委員会 委員長の亀田です。ロボット製作委員会とは、毎年開かれるNHK主催の高専ロボコン大会に向けて、ロボット作りをしている委員会の事です。どの学科も分け隔て無く活躍の場が設けられており、多くの学生が活躍しております。

・NHK 高専ロボコン大会とは？

高専ロボコンとは、全国の高専学生が、毎年異なる競技課題に対し、様々なアイデアと技術を駆使してロボットを製作し、競技を行う大会です。それぞれがかける情熱の高さから、高等専門学校の甲子園とも言われています。毎年10月に行われるこの大会に出場するロボットの製作の為に、実に6か月間もの期間をかけます。

ロボット製作委員会は、自分達が思い描いたロボットを制作することで、学校生活と同時に、自分の技術力を磨く事が出来るのが魅力です。高専への入学を考えている皆さん、私達と一緒にモノ作りの面白さを知りませんか？



キャリア教育センター

本校では「キャリア教育プラン」に沿って、各学年に応じたキャリア教育を実施し、学生が自分自身で進路を選択することをサポートしています。自分自身を理解し、社会を知り、業界業種を知ったうえで、どのような道に進みたいのかをじっくり考えることが主な目的です。そのため、企業・団体の方や卒業生などに協力をいただきながら、講演会やワークショップを開催しています。キャリア形成を考えると「将来」や「先」のことばかり注目しがちですが、そのための「今」をどのように過ごすかが重要だということに気が付きませす。特に、高専生活を経験している卒業生による講演会では、高専生活で何を考えどのように行動していたのが、卒業後には何を感じているかを含めて内容を構成していただいています。また、卒業生の人数も増え、近年はリクルーターとして本校を訪れるOB・OGの数も増えています。様々な業種・業界で働いている先輩と話ができるよい機会にもなっています。



グローバル交流を通じての学生の活躍

グローバル交流推進センター長 タンスリヤボン スリヨン

グローバル交流推進センターでは、沖縄高専の学生の国際交流を推進することを第一の目的として、学生の海外派遣ならびに海外からの留学生や研修生の受け入れに積極的に取り組んでいます。今年度の派遣と受入れの活動状況(一部)を紹介します。

表1 派遣プログラム

	プログラム名	派遣国	人数	派遣期間
1	台北技科大プログラム (JASSO)	台湾	8	8月15日～9月4日
2	研修旅行(台北技科大) (情報通信システム工学科3年)	台湾	40	8月15日～8月21日
3	タイ・バンコクにおける学生交流 (9高専連携)	タイ	12	8月21日～9月3日(本校学生3名)
4	台北技科大サマープログラム (9高専連携)	台湾	13	8月15日～8月24日(本校学生2名)
5	トビタテ! JAPAN 高校生コース	タイ、ネパール	1	タイ: 8月20日～9月19日 ネパール: 翌年2月18日～3月30日
6	トビタテ! JAPAN 大学生コース	シンガポール、ベトナム	1	9月～3月(シンガポール・ベトナム) 【9月10日～翌年3月10日】
8	ハノイ大学における研究発表会 (9高専連携)	ベトナム	1	12月18日～23日
9	ベトナムスエ科大学における国際シンポジウム (9高専連携)	マレーシア	1	翌年1月16日～1月20日 【機械システム工学科4年生の池宮城航也さんが Best Presentation 賞を受賞】
10	トビタテ! JAPAN 高校生コース	オーストラリア	1	翌年3月10日～3月31日

今年度は、延べ58名の本校の学生が海外プログラムに参加しました。彼らは海外でも大変活躍してくれました。特に、ベトナムスエ科大学における国際シンポジウムでは、機械システム工学科4年生の池宮城航也さんが Best Presentation 賞を受賞し、先方大学から進学のお誘いがあるほどでした。

表2 受入れプログラム

	プログラム名	出身国	人数	研修期間
1	さくらサイエンスプラン	台湾	10	7月11日～7月20日
2	9高専連携インターンシップ	タイ	2	6月～7月(2ヶ月) 6月1日来校7月29日帰国
3	提携校インターンシップ受入れ	タイ	1	6月～7月(2ヶ月) 6月1日来校8月28日帰国
4	2016ドローンキャンプ in 沖縄高専	タイ	9	11月27日～12月6日
5	提携校インターンシップ受入れ	タイ	4	12月19日～翌年1月13日

受け入れプログラムを実施する際に、多数の本校学生が協力・活躍してくれました。特に、2016ドローンキャンプ in 沖縄高専のプログラムでは、延べ60名の学生が参加し、異文化交流会やドローンに関する技術交流で大いに盛り上がりました。

他にもグローバル交流推進センターでは、様々な形で異文化理解に取り組んでいます。

12月9日には、宜野座村文化センターがらまんホールとの共催イベントで、グローバル講演会(ハワイアンフラとハワイ沖縄移民)を実施しました。ハワイアンフラ演舞・トーク、そして、沖縄高専技術室の渡邊謙太さん、総合科学科のカーマン・マコア・クイオラニ先生のパネル展示によって、沖縄の人たちが移民したハワイのことを、より深く理解することができました。

このようにグローバル交流推進センターでは、様々な海外派遣プログラム(経費支援を含む)をタイムリーに企画・提供し、また海外からの留学生・研修生との交流の場を沖縄高専内に積極的に提供することで、本校の学生がグローバル交流を通じて将来海外でも活躍できるように支援しています。来年度以降もグローバル交流の推進を活発に進めて行く予定です。



2016ドローンキャンプ in 沖縄高専で活躍した本校および海外の学生達 (飛行中のドローンのカメラで撮影)

地域連携推進センター

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

主な活動内容として、毎月定例の技術相談会の開催、知的財産セミナー、企業技術者等との懇談会、沖縄高専フォーラム等の実施、共同・受託研究、受託試験、技術相談（随時）の受け入れを行っております。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

また、地域交流推進の一環として、小中学生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や小中学校等での出前授業、公開講座等、科学やものづくりの楽しさを実際に体験してもらう活動を行いました。



企業技術者等との懇談会



中学生対象体験授業



カヌチャリゾートでの夏休み体験教室



学生会より



平成 28 年度学生会長
生物資源工学科 4 年
城間 祥太郎

平成 28 年度学生会長を務めております生物資源工学科の城間祥太郎です。今年度の学生会の活動として、4月の体育祭に始まり部活動紹介、5月には島巡りツアー・地域清掃、6月には交通安全祈願の日、7月には七夕イベント・学生プロデュース企画イベント、10月にははすごろく大会、11月には高専祭、12月にはツアーデー・スポーツフェスタ・地域清掃と年間ほぼ毎月様々なイベントを企画運営することができました。イベントの企画運営を行う際、色々な問題にも学生会が一丸となり協力したことでイベントを盛り上げていくことができました。

また、まもなく1年の終わりが近づいてきたと共に新たな道を歩み始める卒業生のための卒業企画運営の準備と同時に、新入生の受け入れについても充実した学生生活を送れるよう準備を進めてきており、新たな仲間との出逢いに胸をふくらませております。本校は、日頃の授業で色々なことを学び・成長することができることと沢山のクラブ活動を通して色々な人と繋がることができることが魅力の一つです。

最後に、今年度得られた経験や他高専との交流会を通して得られた学びや繋がりを糧に、今後益々学生生活を発展させる一助となるよう、学生会一同最後まで努力していく所存です。

学生会が今年度もこうして様々なイベントを企画運営してこられたのも、後援会の皆様、先生方をはじめ学生、執行委員会のメンバーの協力があって成り得たことです。

この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で本科・専攻科を修了される皆様の御健勝と御発展を祈念して結びの言葉とさせていただきます。

寮生会より



平成 28 年度男子寮長
機械システム工学科3年
屋嘉比 悠希

こんにちは。平成 28 年度男子寮長を務めております、機械システム工学科 3 年の屋嘉比悠希です。今年度、執行部では寮生のためになる

ように前年度に引き続き寮のイベントの運営、企画を行うことができました。指導寮生会では、全寮生の指導をはじめ、寮生がよりよく過ごしていくために前年度より大幅に寮内のルール改正に努めました。整美委員会では、月 1 回行われる大掃除の計画・運営を行いました。保安委員会では、避難訓練を前期・後期各 1 回ずつ行いました。後期の訓練は夜間を想定して実施し、より寮生の安全を守るための活動に努めました。保健衛生委員会では毎月の寮食アンケートを実施し、レストランの店長も交えた意見交換会をするなど寮生が楽しく美味しくご飯が食べられるよう努めました。企画広報委員会では、寮祭の企画・運営を行いました。今年度も無事に寮を運営することができたのは各委員会の委員長、寮生、寮務主事、寮事務室の方々、先生方、そして保護者の方々の協力を頂いたからだと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、来年度、再来年度と沖縄高専学生寮をよりよくしていけるよう、寮生会一同、今まで以上に協力していきます。今後とも学生寮をよろしく願い致します。



平成 28 年度女子寮長
生物資源工学科3年
仲里 ひろ

こんにちは。平成 28 年度女子寮長を務めております、生物資源工学科 3 年の仲里ひろです。平成 28 年度の寮生会は今年度から 3 年生が主

体となり、寮生の皆さんが快適な寮生活が送れるよう、各委員会協力して様々な活動を行いました。指導寮生会では、寮生への指導等寮内の風紀維持に努めました。保安委員会では、前期と後期に各 1 回避難訓練を行い、防災意識の向上を図りました。整美委員会では、月一回の大掃除や半期に一度の居室点検など寮内を清潔に保てるよう努めました。企画広報委員会では、抽選会のイベントや、毎月の大掃除の際に音楽を流すなど寮生が楽しめるような活動を行いました。保健衛生委員会では、寮食アンケートを行い、その結果を基にレストランの方と懇談会を行い、楽しくおいしい寮食の提供に努めました。寮生会執行部は寮生総会の企画・運営、また、他高専との交流を通してより良い寮を運営するために活動しました。

今年度の寮生会執行部は、全員が、寮生会に関わるのは初めてであった中、寮生の皆さん、寮生会各委員、寮務主事の濱田先生をはじめ寮務委員会の先生方、寮事務室の方々、レストランの方々、そして保護者の方々のご協力により無事運営することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

来年度以降も寮生の皆さんが寮生活を快適に送れるよう、寮生会一同励んでまいります。今後とも沖縄高専学生寮をよろしく願い致します。

後援会会長挨拶



沖縄工業高等専門学校後援会 会長
森脇 雅佳

今春、晴れて沖縄高専を卒業ならびに修了される学生の皆様、彼らを支えてこられた保護者・学校関係者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

毎年、学生達は当たり前のように卒業していきますが、高専の規定のカリキュラムを全て修了し、卒業に至るまでには本当に大変な道のりだったでしょう。入学したての1年生の頃は基礎的な学習が多かった授業や課題も、学年が上がるにつれて難易度や学習量も上がり、時にはレポート提出と試験のタイミングがいくつも重なり、心が折れそうになったことが何度もあったことでしょう。加えて、若年層のスマートフォン保有率がほぼ100%の時代です。ゲームや動画などの誘惑も数知れず、つい没頭してしまって学業がおろそかになるなど悪循環に陥った時期を経験した人がいたかも知れません。

そういったことを一つ一つ乗り越えて、やっと全課程を修了した彼らを、私は一保護者として誇らしく思います。保護者の皆様、どうか卒業する彼らをたくさん褒めてあげてください。そして新しい世界へ踏み出そうとする彼らの心の支えであり続けてください。

最後になりましたが、本年度も後援会は課外活動や教育・研究事業、進路指導を支援して参りました。学生達もそれに応えて数多くの実績を残してくれました。これもひとえに会員の皆様の御理解と御協力があったからこそ、厚く御礼申し上げます。

今後とも引き続き、沖縄高専の学生達の活動に興味関心を持って頂き、後援会事業に御理解、御協力下さいますようお願い申し上げます。

■保健室より

4月から新たな年度が始まります。保健室では授業開始日前に学生定期健康診断が行われます。健康診断は、就職・進学先でも受けることとなり、年齢問わず身体の変化が気になるのではないのでしょうか。一年に一度、変化に気付く機会なのかもしれません。医師が行う聴診なども病院を受診するとき以外では殆ど受けないのではないのでしょうか。時には健診がきっかけで病気が見つかることもあります。健康で過ごす目安として受けてみましょう。

保健室には身長・体重計、血圧計があります。測定だけでも利用できます。気軽に立ち寄りください。

保健室利用者の訴えで多いのが、頭痛や腹痛です。又、寮生が体調不良で休んだ際に訪室していますが、保健室利用と同様の訴えが多く、例年と比べると休んでいる学生も多いようです。長期休業中に生活習慣を見直し、体調を整え、新年度を迎えてください。



平成29年度学生募集結果一覧

推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	13	2	13	2
情報通信システム工学科	6	5	6	5
メディア情報工学科	18	11	7	7
生物資源工学科	7	7	7	7
男女別計	44	25	33	21
合計	63		54	

専門実習による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	23	8	10	6
合計	31		16	

学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	29	4	23	2
情報通信システム工学科	24	1	27	2
メディア情報工学科	38	7	19	3
生物資源工学科	25	8	19	7
男女別計	116	20	88	14
合計	136		102	

帰国子女特別選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
全学科	0	0	0	0

